

## 加古川市およびその近郊におけるイシガケチョウの記録

竹内 隆<sup>1)</sup>・島崎 正美<sup>2)</sup>

イシガケチョウ: *Cyrestis thyodamas mabella* (以下本種) の兵庫県における記録と分布については広畑・近藤(2007)に記載があるように、継続的に成虫越冬できるかどうかカギを握っており、いぜん確実に定着しているかどうかは明らかではない。最近の公式記録として久保(2015)による2014年11月の豊岡市での目撃報告を知ったことを機会に、著者たちが関与できた兵庫県加古川市周辺の確実な記録を整理したので報告する。

証拠を示せる最初の記録として、2002年5月26日に加古川市志方町西牧の路面で吸水する♂個体の撮影記録があり(図1)、7月7日にも同じく西牧で吸水個体を観察(図2)している。いずれも当時のデジタルカメラの解像度が低いが証拠記録として示す。次いで5年後の2007年5月27日に加古川市志方町西飯坂の天神山で成虫を観察できたが撮影記録はとれていない。

2008年4月27日には加古川市志方町城山登山道でオオバイヌビワの新葉に産みつけられた1個の卵(図3)を見つけている。越冬メス個体がここを訪れた確かな証拠だが、この卵の継続観察を意図して訪れた数日後、孵化したはずの幼虫を確認できず、天敵のクモ類による捕食が推定された。同じ2008年の6月14日に、加古川市志方町山中峠で、県道沿いのオオバイヌビワに産卵行動を繰り返すメス個体を観察でき、葉上で摂食中の若令から終令まで、複数の幼虫個体も確認できた(図4-6)。この時は終令幼虫複数個体を持ち帰って飼育し、蛹となった個体を7月1日に元の食樹周辺に下垂姿勢を保

つ形で戻したが、その際、葉裏に下垂する自然蛹も観察できた。その後に観察できた蛹の抜け殻から、これらの蛹から羽化個体が発生したことを確認できたが、この場所での次世代の継続発生は認められなかった。

2009年4月9日には、ギフチョウの観察会で訪れた加古川市志方町の雑木林内を独特の滑翔を繰り返しながら飛び去っていく越冬個体をとらえたビデオ撮影記録(図7)を残しているが、確かに本種であることは動画でしか確認できない。

次に観察できたのは2014年6月17日、加古川市平荘町の平荘湖へと向かう県道の路傍両側にオオバイヌビワが点在しており、もしかして黄色く目立つ卵があるかもしれないと新葉中心に注意しながら歩くと、県道南側の若葉上に静止する中令の幼虫が目に入り(図8)、さらによく調べると終令の幼虫(図9)と、県道北側のオオバイヌビワでも中令幼虫が見つかった。このあたりのオオバイヌビワにはクモの巣が多いため、この時も幼虫を持ち帰って飼育し、7月2日にオス2、メス2の羽化個体を現地へともどした。そして再訪問した7月9日、現地のオオバイヌビワの新葉に産卵行動を繰り返すメス個体が観察できた(図10, 11)。その後、この場所の県道北側山肌が大きく切り開かれて太陽光発電設備が設置され、本種が発生した県道北側にあったオオバイヌビワは完全に消失し南側だけが残る状況だが、この周辺での本種の継続発生は観察できていない。

2015年には、4月30日に姫路市夢前町で越冬個体



図1 加古川市志方町西牧, 2002年5月26日.



図2 加古川市志方町西牧, 2002年7月7日.

<sup>1)</sup> Takashi TAKEUCHI 兵庫県加古川市; <sup>2)</sup> Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

の飛翔を確認し, 6月13日に加古川市志方町山中(2008年6月に本種が一時的に発生した場所の近く)で飛翔個体を目撃したが, 幼虫を観察したことがあるオオバイヌビワに発生の痕跡は認められなかった。

2016年にも5月31日に平荘町で第一化成虫の飛翔を目撃し, 次いで, 6月8日と11日に加古川市志方町山中の複数個所でメス個体がオオバイヌビワに産卵して回る様子を観察でき, 卵の撮影記録もとった(図12)。2年連続しての同一地域での観察記録は定着の可能性を示唆するが, 産卵以降の継続観察はできていない。

以上の記録の多くは, 絶滅危惧Ⅱ類選定のギフチョウとⅠB類選定のヒメヒカゲの保護団体である「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」メンバーとして野外保全活動中に偶然に観察できた結果であり, まとめて示すと以下の通りとなる(姫路市以外はすべて加古川市)。

- (1) May 26, 2002: 志方町西牧; 吸水♂
- (2) July 7, 2002: 志方町西牧; 吸水♂
- (3) May 27, 2007: 志方町西飯坂天神山; 成虫目撃
- (4) Apr. 27, 2008: 志方町城山; 卵
- (5) June 14, 2008: 志方町山中峠; 産卵♀, 幼虫(若令, 中令, 終令) 観察
- (6) Apr. 9, 2009: 志方町; 越冬個体目撃
- (7) June 17, 2014: 平荘町; 幼虫(中令, 終令) 確認
- (8) July 9, 2014: 平荘町; 産卵中の♀と卵を確認
- (9) Apr. 30, 2015: 姫路市夢前町; 越冬個体目撃

- (10) June 13, 2015: 志方町山中; 飛翔個体目撃
- (11) May 31, 2016: 平荘町; 飛翔個体目撃
- (12) June 8, 11, 2016: 志方町山中; 産卵中の♀と卵を確認

兵庫県においては淡路島での土着が确实視されており, 他にも成虫越冬ができている可能性の高い地域があるようだが, 加古川市周辺ではまだ確実に定着しているとはいいがたい。加古川市での越冬個体の観察例は少ないが, 食樹のオオバイヌビワが広い範囲に分布しており, 気候の温暖化が進む状況下で加古川市周辺に本種が定着する可能性はあると考える。

#### 参考文献

- 広畑政巳, 近藤伸一, 2007, 兵庫県の蝶, 330pp. 岩峰社, 東京  
久保弘幸, 2015, きべりはむし, 37(2), 68



図3 加古川市志方町城山登山道, 2008年4月27日.



図4 加古川市志方町山中峠, 2008年6月14日.



図5 加古川市志方町山中峠, 2008年6月14日.



図6 加古川市志方町山中峠, 2008年6月14日.



図7 加古川市志方町, 2009年4月9日.



図8 加古川市平荘町, 2014年6月17日.



図9 加古川市平荘町, 2014年6月17日.



図10 加古川市平荘町, 2014年7月9日.



図11 加古川市平荘町, 2014年7月9日.



図12 加古川市志方町山中, 2016年6月8日.